



その215

クローズアップ21

前方ティや練習コース整備 サニーカントリークラブ

施設の差別化で誰もが楽しめるリゾートコースを目指す

一般的にリゾート地と言えば、長野県の軽井沢、神奈川・静岡両県に跨る富士・箱根・伊豆、栃木県的那須・日光をはじめとする、避暑地や温泉を堪能できるエリアが挙げられるが、そこにはリゾートコースが隣接しているケースが多い。いわゆる名門コースばかりだけでなく、歴史と伝統を備えたコース、手頃な予算でプレーできるコースなど、それぞれの志向に応じたコースが存在する。余暇を楽しむ拠点の一つとして、日本においても非日常の世界を満喫できるのがリゾートコースだ。

また「観光地」が、観光資源を中心に周遊旅行者を集め、1泊のみ1回限りのお客が多いのに対し、「リゾート地」は優れた環境を資源とし、繰り返し来訪する滞在客が多い場所と言えるだろう。

サニーカントリークラブ（27H）が位置している長野県佐久市も、軽井沢に並ぶリゾート地で同CCは標高1000〜1200メートル。夏は涼しいことで有名な場所だ。なお、同CC経営の望月サニーカントリー（株）は、民事再生手続を経て平成28年5月にスポンサーの（有）パインコーポレーションの系列

下となった。同社は不動産業等を手掛けたたわら、小林祐治代表取締役社長が明治大学ゴルフ部OBで、現在も明大ゴルフ部助監督を務めている。学生に早朝、薄暮プレーを無料開放するなど、ゴルフ振興にも非常に意欲的だ。

そんな同CCでは、本格的な前方ティの導入だけでなく、来年5月に予定のグラウンドオープンに向け、現在の27Hを18H営業にし、閉鎖の9Hを6Hの練習コースや大型練習場に転換、タイや国内コースとの提携、長野県下初のスループレーの導入など、リゾート施設を生かした多様な施策に取り組み、差別化を図る動きを見せており、抜粋して紹介していきたい。

その前に入場者数や男女比等の



本誌記者も“サニーティ”を体験

現状を簡単に触れておこう。同Cは1975（昭和50）年7月の開場の林間コースで、全長1万386ヤード。年間の入場者数は約3万2000人（対前年112・6%増でメンバーは1万1000人、ビジター2万1000人）、営業期間は5月から11月末頃まで。メンバーの数は1100人で平均年齢が60歳、そして来場者の女性比率は高く、約18%となっている。

様々な苦難を乗り越え、日本初の本格的な前方ティが完成

今年の5月28日から蓼科コースと八ヶ岳コースの18日に「前方ティ」の工事を着工し、10月7日より使用を開始している。この前方ティは、日本ゴルフコース設計者協会の理事で井上誠一氏唯一の弟子、嶋村唯史氏に監修を依頼した。完成した前方ティの名称は「サニーティ」とした（総距離は4504ヤード）。現状のティよりさらに前方にティを設け、ゴルフアークが自分の力に合った正しいティを選ぶことによって、距離のハンデを緩和し、本来のゴルフの面白さをより多くの方に幅広く楽しんで

もらう考えだ。同Cの小林祐治代表取締役社長は、設置した前方ティについて「昨年、私の指示で前方ティを造成しました。女性ゴルフアークからは好評だったのですが、専門家ではない素人の私の感覚で造成したため、恥ずかしながらティグラウンド自体が小さ過ぎて芝が生えてこなく、結果的に大失敗という事態になりました」と話す。

この前方ティを導入しようと思っただけは、以前から来場者の要望がかなり多かったからだそうだ。「既存のレディースティから打つと長くて、3打打つてもグリーンに届かない。もう少し楽な場所から打つことができた」という声が多数ありました。このような要望をふまえて、前方ティのイメージや要望を外注の業者に伝え、ティグラウンド造成を依頼しました。前方ティは、女性のご高齢のお客

様やゴルフを始めたばかりの若い初心者からの利用率が高かったです。利用者からは「ベストスコアが出た」という声も出て、喜んでいただいた方も少なくなかったです。しかしその反面、「あんなに前から打つのはゴルフとしてどうなのか？」といった否定的な意見もありました。その多くは前方ティを利用していた女性たちと一緒にプレーしていた男性からでした」（小林社長）

その後も、良いスコアが出て満足している前方ティ利用者の声の方が圧倒的に多く、前方ティの本格導入に踏み切ったという。論理的にしっかりとした前方ティを導入すれば、同ティを利用しないゴルフアークからも満足してもらえると考えていたといい、「昨年10月のジャパ



○印がサニーティ（前方ティ）の位置

ンターフシヨードで一季出版さんのプライベート&樹木伐採）を通して、コース設

計家である嶋村先生という素晴らしい方と出会うことができました。多数の実績を持つ嶋村先生が作った「前方ティ」となると、業界関係者をはじめ、全国の様々な方々から見ても見える、注目を集めることのできる立派なティになると確信し、依頼しました。嶋村先生にティグラウンドの造成を依頼して勉強になったことは、まず距離の設定です。しっかりと18ホールを

バター以外の13本をうまく使用し、プレーする距離の考え方です。当クラブに来られる前にIPから逆算し、レイアウトから計算しておられていました。そして、ワールドワークでイメージに合っているか確認していただき、前方ティの位置を先生と1ホールずつ一緒に決めました。ホールによつては、カート路から少し離れた場所を選択していましたが、それぞれのホールに合ったティグラウンド設置の考え方だけでなく、合理性よりも元の設計者の意図を汲んだ考え方にも大変感銘を受けました。先生には10回以上、コースを歩いて見ていただき、ティの細かい位置を指導いただきました」（小林社長）。

使用開始してから、高齢のメンバーやゴルフ初心者を中心に来場者からの反応も上々で、問い合わせも増えているようだ。

前方ティの導入に合わせて 18H営業に向け、コース改修も

同CCでは、前方ティの導入だけでなく、来春から27Hを18H営業（蓼科コース、八ヶ岳コース）とし、残りの9H（浅間コース）を改修し、練習場や6Hの練習コースにする計画を立てている。

嶋村先生には前方ティだけでなく、木伐採やティグラウンドなど、全体的なイメージ監修もお願いしています。『グレードアップな改修工事ではなく、イメージアップをしましょう』と提案いただきました。当クラブは、リゾートエリアでもありますのでリゾートを全面に出したレイアウトにしていきたいと思っています。なにより今後、人が少なくなるのは避けられない問題です。27Hを、18Hのリゾートコースとして全面的に出していった方が営業的に良いのではないかと思い、改修することに決めました。今年11月18日



浅間コースを改修し、新たに作る6Hの練習コースはロングもミドルもある現在のコースを一部残す

までを通常営業とし、それ以降は完全セルフ営業となりますが、それと同時にコース改修に着手する予定です。まずは300ヤードの練習場を作る予定で、そのために木を200本ぐらい切ろうと思っています。この作業を雪が積もる年内に終わらせ、雪解けと同時に打席を作る予定です。

当クラブには、どの層にも対応できる複数の宿泊施設も完備していますので、遠方からの宿泊のお客様にはまず18Hプレーしてもらい、クローズする9Hスペースで6Hの回り放題や練習場も利用してもらおう、といった形で展開し、周辺のコースとの差別化を図ろう

と考えています」（小林社長）

なお、閉鎖する浅間コースの1、2、3、4、7、9番ホールを残し、これを6ホールの練習コースに転換する予定だという。この6Hや大型の練習場はレッスンプロへ時間単位で貸し出す他、高校や大学のゴルフ部に貸し出したり、初心者向けのイベント企画を実施していく予定だという。その他、ナーセリーを兼ねたパッティンググリーンやアプローチ練習場も作る予定だといい、将来的にはこのスペースでフットゴルフの実施も視野に入れていこう。

「18H営業への転換は既に理事会で承認されており、メンバーさんには通知しましたが現在、告知がクラブハウス内の掲示やSNSぐらいで、まだうまくできていません。今年18H営業を開始するクローズ明けの5月にグラウンドオープンとしてサニーティと共に披露目しようと思っています。その際にはゴルフメディアを対象とした記者会を開き、メディアの方々にサニーティだけでなく、新たに作る6Hや複数の練習場、当クラブ自慢の宿泊施設やバーベキュー

も体験していただく予定です。来年度は告知には特に注力していきたいと考えています」（小林社長）

会員の満足度向上のため、 タイの3コースと提携

同CCの小林社長は、9月中旬にタイの3コースと提携契約を調印し、今後は会員の相互利用と交流につながる方針だという。

提携のきっかけは、本誌が今年2月に企画のゴルフ場経営者向けのタイツアーだったという。またツアー時に視察ブレールしたパタナGC&スポーツリゾート（パタヤ、27H）は、毎年明治大学のゴルフ部の合宿で利用しており、それも後押ししたようだ。今回はパタナ



タイでの調印式の様子（右が小林社長）

GCの他、プラバ・GC（バンコク、36H）、クルンカビー・GCコース&CCエステート（バンコク、27H）と提携した。

「タイのゴルフ場のクオリティの高さや一年を通して快適に過ごせることから、業務提携できるコースを探していました。当クラブは12月〜4月までクローズで、その期間のメンバーへのサービスとして提携しました。提携した3コースはすべてウエルカムでスムーズに調印できました。まずは、サニCCCのメンバーにタイへ行ってもらう、将来的には相互に年1回交流戦のような大会を行っていきたいと考えています」（小林社長）

その他、タイ・日本を相互にスムーズに行き来できるよう、連絡所としてプラバGC内に現地事務所を設置、ここには日本人スタッフが常駐しているという。なお、パタナGCは来季の年間コンペ（パタナゴルフチャレンジ2019）の優勝者旅行をサニCCCへ招待するといいい、早々に動き出している。

**タイツアーで出会った
国内の2コースとも提携を**



本誌企画のタイツアーで意向が合致し、提携した小林祐治社長（サニCC、右）、國安玲佳社長（男鹿GC）、北村太一社長（サザンクロスリゾート）

タイ3コースとの提携にとどまらず、同CCではタイへの視察旅行をともした、国内のゴルフ場経営者同士で意向が合致。サザンクロスCC（18H、静岡）や男鹿GC（同、秋田）とも提携する。提携により会員の交流だけでなく、クローズ期間には従業員を派遣して研修、互いに経営力を高めていく予定で、小林社長は「ゴルフ場単体で頑張るのはきついです。国内外のゴルフ場ともアライアンスを組んで、集客やメンバー対策、コース管理など、みんなで情報を共有しながら盛り上げていきたいと常に思っています」と話す。

**充実した宿泊施設を完備
人気のバーベキュー**

なお、クローズ期間に入る今年の12月より、提携するサザンクロスCCへ従業員（レストラン、フロント）2名を社員交流で約2カ月間派遣する予定だという。自分のコースだけしか知らない従業員もいるので、他のコースへ研修に行き、勉強するというもの。またサザンクロスCCは12月も繁忙期ということで人も足りなかったことも背景にあったようだ。サニCCCは毎年何人か入れ替わりで行う予定だという。また、クローズ期間を利用し、キーパーが1〜2月の2カ月間研修に行く計画もあるといい、今後も国内外で提携コースを増やしていく考えで、群馬や埼玉の夏に暑いコースとの提携を強化していくという。

同CCのクラブハウステラスで体験できるバーベキューを紹介して終えたい。ライトアップされた幻想的なコースを臨みながら、バーベキューを高原リゾートで楽しむことができる。牛肉の他、国産の鹿肉、信州産豚肉も取り揃えており、オプションサービスとして、



高いリピート率を誇るハウステラスでのバーベキュー

シェフが食材を焼いてくれる（シェフにおまかせコース）もある（予約制）。初心者ゴルフアールでも避暑地でゴルフ+αで楽しめるというところで人気を呼んでおり、リピート率も高い。現在は夕食のみの使用だが、来年はランチでも導入することを検討しているそうだ。余談だが、小林社長がアウトドア派でテーブルや椅子、バーベキューセットなど、ゼロから用意したという。

なお、誌面の都合でサニCCCの各施設（練習場予定地、クラブハウス内にあるロッジ、コースサイドにある6棟のコテージ、無料のアプローチ練習場やドッグランなど）は次号で取り上げる。